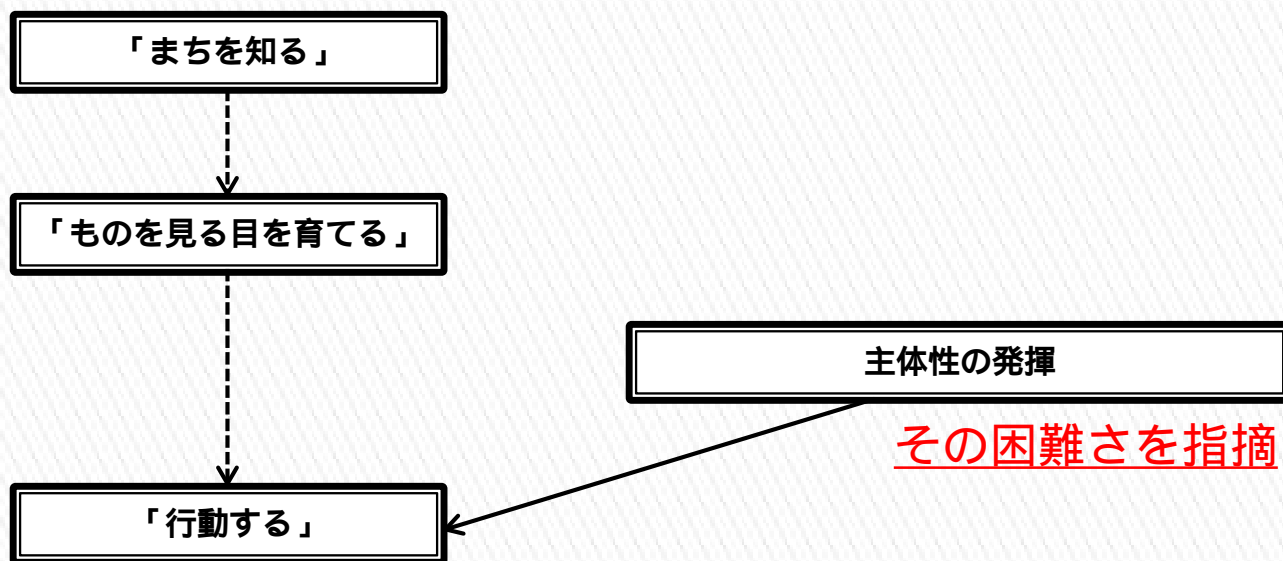


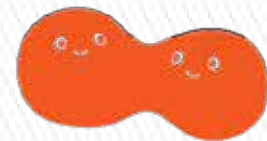
地域を担う人材の育成



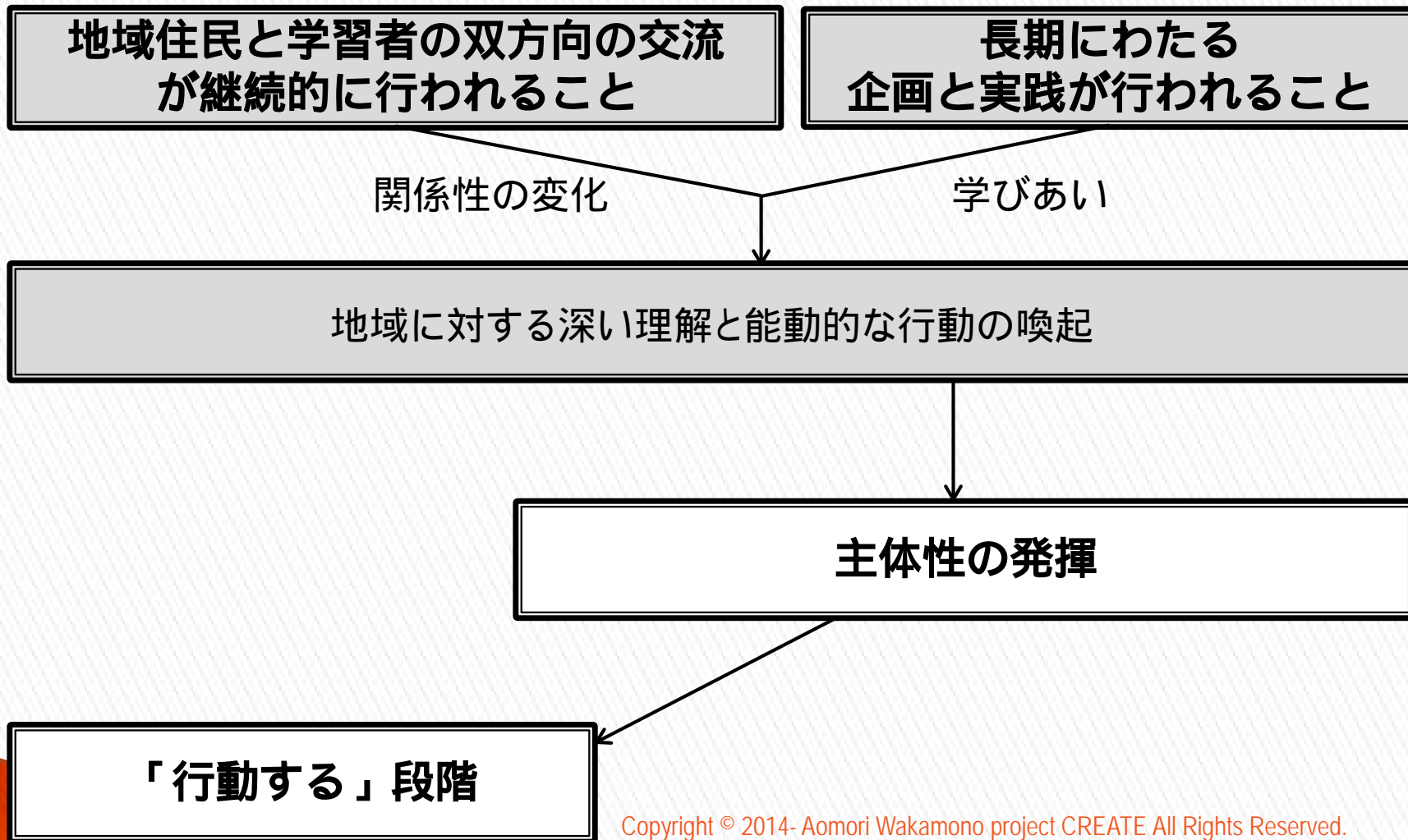
青少年のまちづくり活動における 学びのプロセス(先行研究)



安藤(2004)、玉田(2013)をもとに筆者作成



なぜ行動が生まれたのか





参加者は、具体的にどのような変化があり、それはどのようにもたらされるのか。

非認知能力

自ら考えた提案を、地域住民を巻き込み主体的に実践することを通じて高まったことが考えられる。

地域に関する知識・関心

商店主と交流することが社会との接点となり、これによって地域に対する関心や知識、郷土愛が高まった。

人的ネットワーク

学校外での活動、地域での活動を行ったことにより、学校では構築されにくい地域や他校との世代を超えた人的ネットワークが構築された。



店主は、参加者である高校生との活動を通じて、どのような変化が生まれるのか。

1. 高校生を地域を構成するセクターとして認識が変化

店主は、活動を通じてこれまで関わり得なかった高校生世代と関わりが生まれたことで、価値観などの理解が育まれた。

2. 商店街活性化に対する意識が変化

活動を通じて、商店街や自店の役割を再認識され、商店街活性化に対する意識は変化した。また、担任間でも関係性が構築されたことで、新たなネットワークが生まれ、従来からあった当該商店街活性化のネットワークの裾野は広がった。



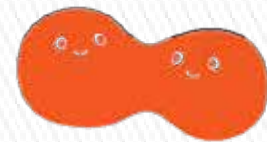
参加者が、行動する段階に至るために必要とされる「主体性の発揮」には、どのような要素が有効か。

1. 地域住民の関わりと関係性の変化

高校生が地域住民と関わることによって、【生徒】や【子ども】など従来とは異なる立場・役割が付与され、長期間にわたる議論やフィールドワークを通じて、価値観等の共有が図られ関係性の変化が発生し、能動的な行動が促された。

2. 主体的に企画を検討・実践できる機会

年度末までに企画を検討するプロセスは、長期間にわたる議論を生み出し、地域に対する理解を深めることとなった。また、商店主の高校生の主体性を尊重しようとする姿勢もその一助となった。



「成果と過程論」

- } まちづくり活動で得られる産物の両義性
得られる産物は「成果」と「過程」である。能力などの成果を意識しがちであるが、活動での双方向の交流などの「過程」を通じて高まる「参加者の郷土愛の醸成」や「参加者以外の意識・行動変化」も看過できない重要な産物である。
- } 青少年のまちづくり活動における地域住民関与の重要性
地域住民が関与することで、参加者の主体性萌芽や、住民自身の意識・行動変化がみられた。一方、たとえ同様のプロセスをたどっても地域住民が継続的に関与しない場合、その産物には限りがみられた。